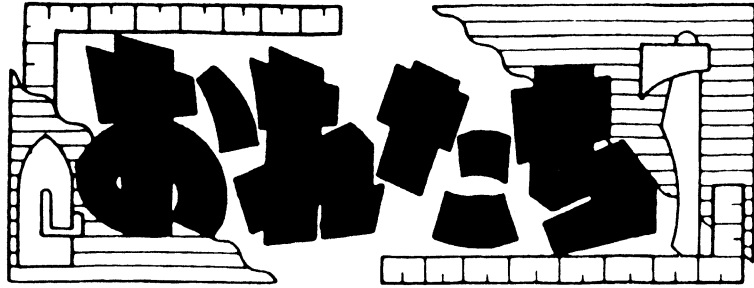


来月の無料法律相談は
 12月17日(金) 14時～16時
 希望者は前日までに予約を
 11月初組員数=2329人(+49人)



2010年
11月10日
 第505号

http://www.doken-arakawa.org/ 東京土建荒川支部 **検索**



連続達成にわく荒川分会のみなさん

支部目標達成 7年連続に

秋の拡大 情勢厳しいなか最終盤追いあげ

8月末からスタートした秋の拡大月間も終わり、新加入者は126人。初めて試みた「生たまご」大作戦。拡大センターに集まる組合員も増え、組合員訪問も飛躍的に伸びました。しかし、中盤以降対象者が見えなくなり苦戦。あらため

川 加藤分会長がローラー戦術

荒 ちよつとのきつかけも大事に

今回から導入した「たまご作戦」。このたまごは拡大パンフを持って、加藤分会長を先頭に活動家のみなさん、担当書記が対象者の掘り起こしや事業所廻りに奮闘しました。その結果、拡大目標を超え19人の新組合員が私たちの仲間に加わりました。

加藤分会長は、現場に行く朝、帰りの夕方と、荒川以外の地域もよくまわっています。今回、拡大に結びついた金野弘明さん(リフォーム工事業、44歳)は、荒川区内で法人を経営する事業主ですが、この企業も加藤分会長のローラー戦術で見つけ出したところ。加藤分会長はそのときのいきさつを「8月頃だったかな、仕事の帰りに資材が置いてある事

務所を見つけたんだ。そこにあった広告チラシを引っぺがして、建設だと分かった。連絡先があったから、すぐに組合に知らせ、担当(書記)の三田さんが資料を送って何度か連絡してくれた」と話しました。

金野さんの要求は労災保険への加入で、即組合に加入。金野さんは、「これから建設業許可とかリフォームセンターとか、いろいろ利用したいものもあって」と組合に期待を寄せています。

また、荒川分会は拡大のきっかけになることは、ちょっとしたことでも見逃しませんでした。今回拡大した解体業者、菅原敏也さん(44歳)は、毎月のアスベスト根絶の駅頭宣伝がきっかけ。8月の駅宣で、「うちも建設やってますよ」と署名をしに来た菅原さん。立ち話の中で、実は未加入者であることが発覚。その後、分会は菅原さんに猛アタックをして、職人も含め2人を拡大しました。

文 石川哲夫記者 荒川、写真 並木義男記者 荒川

て、組合員に依頼した声かけを行い終盤で挽回。支部目標125人を達成しました。要求は、組合総合共済で23・3%、健診で14・7%、業務が頼りになるので18・4%、仲間のつながりで20・2%などです。(2面～4面に関連記事)

分会名	2010年1/1付現勢	秋の拡大月間		2010年10/1付現勢	2010年11/1付現勢
		月間目標	成果		
西尾久	314	18	8	303	300
東尾久1	164	10	5	148	145
東尾久2	189	11	☆11	192	192
荒川	318	18	☆19	314	317
町屋北	220	13	7	212	211
町屋南	232	13	☆14	215	217
日暮里1	225	13	☆16	207	209
日暮里2	231	13	☆14	224	221
南千住	212	12	☆15	200	203
事業所	133	8	☆10	113	113
直 属	134		7	152	201
合 計	2,372	125	☆126	2,280	2,329
主婦の会	496	32	☆32	423	
青年部	95	10	☆10	81	
荒友会	126	16	☆16	130	

☆…月間目標達成

秋の拡大月間到達表 2010. 11/2現在

未加入者の要求見極め 8月下旬 早々と達成

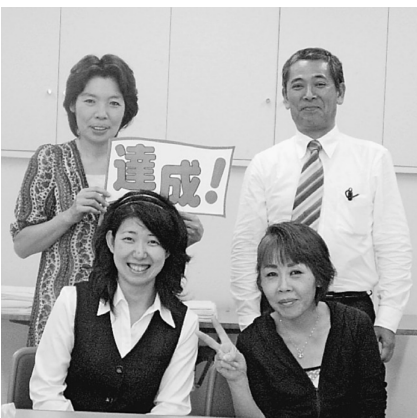
【船橋(塗装)は、未加入の相手が何に困っているのか、見極めることは大切です。拡大決起集会(8月29日実施)に講師の稲田さんが行った、営業力向上の講演は組合の拡大にも参考になっていきます」と話してくれました(写真左上)。

常任が昼間訪問 労災などで拡大

町屋南

所が脱退。そこに勤めていた社員が別会社を興し、9人があらためて加入しました。分会長の八木橋郁子さん

【戸井田昭雄記者 町屋南】町屋南分会は、目標13人を最終盤にやりきりました。



いのちの山河
 日本の青空Ⅱ 大澤 豊監督作品

◎12月10日(金) 10・14・19時の3回上映◎サンパール荒川大ホール◎前売券 11月、分会に配布済み 大人1,200円、中高生800円、障害者800円

都福祉局要請

国保課長

現行水準の確保に努力 来年度予算での都費補助

【濱田和男通信員＝南千住】

10月19日、都福祉保健局要請行動が都庁第一庁舎会議室で行われました。荒川支部から2人が参加しま

した。来年は都知事選のため早く実施し、担当も竹島国保課長に変わりました。松尾都連社保対部長が、建設国保の育成・強化、来年度予算での都費補助金の現行確保などの要請趣旨を説明。

竹島課長は、「みなさんからの要請ハガキを読めば、来年度も都費補助の現行水準を守り、最大限の努力をしたい。保険料の上昇にならないよう、来年度も一人あたりの補助単価は増額で要求する」と回答しま

福祉局と交渉する代表団
＝新宿都庁で

池袋の豊島公会堂に東京、千葉、埼玉ほかから全建連傘下の組合員487人が集まり、ゼネコン・住

日建連提言 年収600万円への向上など要請

関東地協 大手企業交渉

【増山 国吉通信員＝西尾久】10月21日、全建連連関東地協は建設・住宅企業交渉を行

い、荒川支部では5人が安藤建設との交渉に安藤は、①日建連の「年収600万円」の提案については、現在日建連との情報交換をしている。実施を詰めている状態だ。また、提言の「重層下請けの改善」については、2次から3次以内で検討している。③下請け間で不払いがおきた場合は、元請として対応するなどの回答をしています。

した。次に「アスベストの認定患者が476人ほどいる。石綿が原因で20年、30年後に発病している。しかし、都内に専門医が少ないので

専門医を増員して欲しい。そのための予算確保の努力もして下さい」と要請しました。竹島課長は「みなさんの要請に努力します」と席を立ちました。



最終盤に底力をみせた東尾久2分会のみなさん

水戸部分会会長を先頭に役員、吉田書記が一丸となり、以前から声をかけていた組合内事業所から健診の要求で5人を拡大することができました。ここまで来れば後は勢い。佐藤書記長の息子さん、加藤常任執行委員の仲間を組合に迎い入れて拡大目標に到達しました。

東尾久2 最後まであきらめない 厚生年金・健診らで拡大

【並木義男記者＝荒川】

支部7年連続拡大に向けて、分会でも11人の目標で秋の拡大に取り組みました。前半に厚生年金、健康診

断の要求で拡大につながったが、拡大中盤になっても数字が伸びませんでした。今までの拡大で学んだ教訓「最後まであきらめない」ことが後半に生きました。

【竹達浩記者＝南千住】南千住分会は、10月21日に分会目標の12人を達成しま

した。近年、南千住分会も拡大の画期的推進という本部方針の下、拡大に努めて

きた。秋の拡大達成ができたのは、八木分会長を始め、役員、組合員一人ひとりの横

【川又好一記者＝日暮里】日暮里2分会は「この秋の拡大は大変厳しかった」と振り返ります。9月のたまたご作戦は、組合員への配達だけで拡大が進まず

困りました。もともと事業所の多い分会ですが、町場の職人廻りをしてみると拡大できる状態ではありませんでした。原因は、仕事がない、手間賃が下がり、とても組合費が払える状態ではないから。

【川又好一記者＝日暮里】前半戦苦戦も10年連続達成は、支部でいつもトップクラスを維持する日暮里1分会。前半9月のたまたご大作戦では、拡大センターに参加する活動家が協力を呼びかけましたが、前半戦は苦戦が続きました。

10月3日の中間決起集会後も盛り上がり、低迷を続ける状態を何とかしようと訪問を繰り返しました。対象者からは「仕事がなく、組合費を払う自信がない」などの声。達成のきっかけは、本部機関紙の『げんせつ』に日暮里1分会が載った記事。参加者全員が急ぎょ、電話作戦となり、結果、秋の拡大10年連続達成と記録を更新させました。

横のつながり生かし達成 地域的に対象者みえにくいなか



みごと達成した南千住分会＝小川隆志通信員（南千住）写す

しかし、最近はお客が見えにくくなってきました。それは南千住分会が置かれている、地域的な要因と結びついているようです。南千住の人口の3分の1は、汐入の中高層住宅に住んでいるために、建設労働者の確認が難しいのです。

秋の拡大達成ができたのは、八木分会長を始め、役員、組合員一人ひとりの横のつながりを大切にしたからです。特徴的だったのは、会田猛さん（建築・大工、43歳）が下請業者のとび、樋村太郎さん（23歳）を拡大したことです。樋村さんは、将来的に法人化も考えており、労災加入なども要求でした。最後に、卵の効果も過小評価してはなりません。卵が大きくなくて、卵を生んでくれたことを確信して



日暮里2

日頃の未加入者訪問が実った日暮里2分会のみなさん



達成を喜ぶ日暮里1分会活動家のみなさん

達成を喜ぶ日暮里1分会活動家のみなさん

東京土建荒川支部 2010年・分会対抗
後継者対策部主催 東京土建大会予選を兼ねます

ボウリング大会

■とき 11月28日(日)
15時30分集合・16時ゲームスタート

■ところ 北千住マルアイボウリング

■規模 分会1チーム以上

※ママ・主婦・こどものレーンもあります
※申込締め切り 11/19まで

日比谷公園なくせじん肺全国キャラバン

衆参両院に請願デモ

東京集結行動に500人

【間所秀夫通信員＝荒川】10月1日開会した、第21回なくせじん肺全国キャラバンは、19・20日と東京集結行動を取り組みました。



20日はキャラバン行動最終日、日比谷公園の霞門に全国から500人以上が集まり、国会までシュプレヒコールを叫びながらデモ行進をしました。

衆議院と参議院の玄関前では、社民党・日本共産党の国会議員団が拍手で私たちを迎え、請願書を受け取りました。デモ参加者、議

員団ともに「要求貫徹！ 団結がんばろう」を三唱しました。「じん肺」とは、粉塵を吸いこむことで発症する職業病です。アスベストの作業はもちろん、トンネル、鉱山、造船所、建設、はつり、石材の切り出し、耐火レンガ、ガラス、セメント、カーボン、研磨などの粉塵現場から「じん肺」は多発しています。

2010 秋の拡大新加入のみなさん

西尾久

- 岡田勝美 はつり・解体
- 伊藤博文 防水
- 宮下康則 床・内装
- 土田祥太郎 ビルメンテ
- 佐々木信吾 床・内装
- 入山裕樹 ビルメンテ
- 板鼻 海 ビルメンテ

東尾久1

- 深澤りか子 床・内装
- 中里雄貴 内装
- 阿部勝弘 内装
- 神村 豊 内装

東尾久2

- 木下敬孔 電気
- 福島博紀 とび
- 宮川敏男 とび
- 山下政治 とび
- 内間 清 とび
- 三浦勇雄 とび
- 松田政治 レンガ・タイル
- 小田倉尚美 レンガ・タイル
- 丸山和夫 内装
- 佐藤智明 内装
- 野中靖之 内装

いい思い出です。

30年くらい前に築地本願寺の副輪番様とご縁を頂き、それ以来、畳のことではお世話になっていきます。

6年前、御本堂の内陣、下陣など百畳の張替え作業をしました。御本堂の扉が閉まってから12時までの仕事で、職人の手をそろえるのは大変でした。これからも、修行

時代を忘れずに精進します。

文 並木 義男記者 荒川

仕事に誇りあい

東京オリンピックの年、昭和39(1964)年に文京区本郷の中村量店に修行に入りました。今と違って当時は気温も低く、冬などは包丁を研いでいるうちにバケツの水は凍り、砥石などはお湯を掛けないと取れませんでした。

本願寺の百畳の張替えを行う 修業時代忘れずこれからも精進

荒川分会 並木 義男さん



本願寺の畳替えで「感謝状」を授与された並木さん

最初の休みに洗濯物を荒川の実家に持ち帰るところを見られ、「仕事だけじゃなく、全部仕込んでくれとおっかさんから頼まれている。自分で洗え」と叱られました。一生忘れられませんし、今となればありがたかったです。

- 伊藤 優 とび
- 倉木英二 左官
- ジョン・トーマス 電気
- 金野弘明 建築・大工
- 宮崎高弘 はつり・解体
- 宮崎良美 はつり・解体
- 我満憲一 とび
- 岡田耕平 土木・舗装
- 中居 均 土木・舗装
- 森山寿翁 土木・舗装
- 丸山秀一 土木・舗装
- 中田公寿 とび
- 横山良枝 床・内装
- 佐藤明子 防水
- 中野正枝 左官
- 香遠理香 内装
- 澤元京子 通信
- 篠木嘉明 書記
- 井澤久子 内装事務
- 日暮里1
- 上沼慶修 看板取付
- 江端康行 電気
- 堀井麻衣 塗装
- 池内秀夫 冷暖房
- 田中裕司 塗装
- 小谷津正也 土木・舗装
- 小谷野弘子 電気
- 鈴木マリ 電気
- 小俣郁恵 看板事務
- 松本真澄 電気
- 尾崎成孝 レンガ・タイル
- 日暮里2
- 福留友也 設計・製図
- 小山直子 設計・製図
- 椎名裕子 設計・製図
- 鈴木一圭 塗装
- 北 翔二 塗装
- 吉田 剛 塗装
- 田上和宏 塗装
- 相馬浩一 ガラス
- 細谷泰一 板金
- 池田敬朗 板金
- 清水昭夫 建築金物
- 高堀 豊 板金
- 三橋 鍊 内装
- 南千住
- 樋村太郎 とび
- 竹達和弘 建築・大工
- 秋丸 清 給排水衛生方
- 市川 晃 とび
- 柴田信夫 床・内装
- 小久保正次 床・内装
- 長沢健史 はつり・解体
- 木場一希 はつり・解体
- 細谷祥平 建築金物
- 秀島輝夫 建築金物
- 佐藤一義 はつり・解体
- 富樫啓一 床・内装
- 大川武志 とび
- 柿沼将光 建築・大工
- 事業所
- 関口和弥 通信
- 高橋洗太 通信
- 小泉徳一 通信
- 井出さや香 通信
- 三島徳仁 通信
- 並木 博 通信
- 中村雄太 通信
- 中村孝弘 通信
- 市毛光邦 通信
- 山口真美 建築・大工
- 直属
- 佐伯瑤介 防水
- 兼城千晶 設計・製図
- 渡邊真平 ビルメンテ
- 矢吹 昇 給排水衛生方

音の葉

特に目立ったのはマスメディアの報道のあり方だ。それは日本に限らず、世界的にそうであったようだが、真実を伝えたいということである。マスメディアの本来の使命は、真実を伝えることだが、必ずしもそうとは限らない。私はヨーロッパ、中近東のことを書いていた雑誌を見ていたが、日本のメディアに限り、その状況から判断して、救済活動は極めて困難であったことは私たちが素人でも想像がつく。

一つ例をいえば、パレスチナとイスラエルの紛争報道で、パレスチナの被害報道は克明にされるが、イスラエルのそれは極めて少ない。これは真実を報道することによって国家的に利害が生じるからだろう。日本は石油の大部分をイスラム諸国から輸入している事情から、事実を報道できないのだろう。すなわち、報道にも政治の力の影が見えるのである。

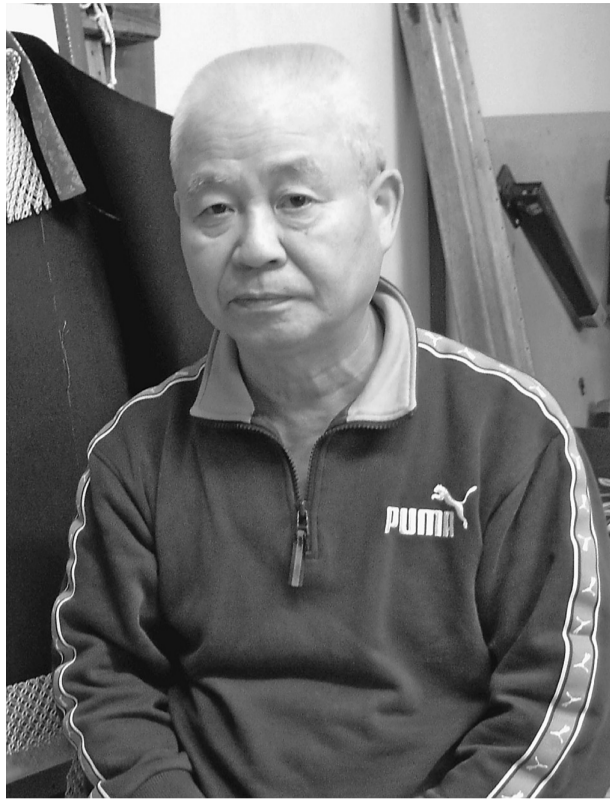
秋の拡大 126人の成果あげる



全分会が新たな仲間 組織強化につなげて

秋の拡大月間大変お疲れさまでした。この不況の中での拡大でしたが、荒川支部の目標125人に対して126人の成果を勝ち取ることができました。全分会達成はなりませんでしたが、この間の取り組みの中で、確実に全分会が新たな仲間を増やすことができました。その仲間のつながり

を大切にし、組織強化につなげていかなければなりません。これからまだまだ建設業の不況は続くでしょうが、東京土建はその不況を打開してみなさんの暮らしを守り、安心できるように奮闘します。組合員そして家族のみならず、ご協力ありがとうございました。2010年11月1日 組織部長 五十嵐淳



はっとりもとあき 服部元明さん デザインや色彩が決まっているものを、糸でどのように表現するか—それがプロの腕の見せ所。作ったものは20年~30年以上も使えるといいます。平成9年度荒川マイスター

服部元明さん 刺繍づくりに50余年 お客さんが満足してこそ

「出役—アド街ック天国」(テレビ東京、2010年2月6日放送分)で三河島を特集したコーナーで紹介されました。特別な技法で相撲取りの土俵入り化粧まわしなどの刺繍製品を半世紀にわたって作り続けてきた荒川マイスターの服部元明さん(服部刺繍店代表、69歳、東日暮里6-27-3)を訪ねました。取材 川又好一記者—日暮里1 小林寿郎記者—町屋南

栃木県宇都宮市の中学校を卒業後、集団就職で1956(昭和31)年に上京、東京の刺繍業に就職しました。約4年の修業を積み、少しでも多くの技術を取得するため、別の技術を持つ

刺繍業に修行に入り、約2年間学び、独立しました。「誰よりも早く技術を身につけたい」と一念で始めたんです。

一針一針こいねいに縫う手縫いにこだわる

一針一針こいねいに縫う手縫いにこだわる。当時の糸を自分で染めて、その糸を太くするため、何本かを一緒にして手

でが仕事が多い時代だったと振り返り、その後仕事は少なくなり、手縫いの刺繍も単価の関係でミシン刺繍に奪われ、手縫いでしかできない製品は残ってしまいました。

「市松縫い」「鱗縫い」「莫摩縫い」など、デザイン・技法もバリエーションに富んでいます。そんな数々の技で作られるのが、相撲の化粧まわし、校旗や社旗、競走馬の優勝旗など多岐にわたります。



大井などの競走馬の優勝旗年間100枚手がける

訪問した作業所には、制作中の重厚できらびやかな製品が並んでいました。



服部さんは、関東系(中山・福島・東京・函館・札幌・大井・船橋)の競馬場で作られる競走馬の優勝旗(首かけ)の刺繍部分を年間100枚ほど受け持っています。この様な製品は、それによって違いがありますが、数人の手が加わって一つの製品ができ上がります。お客さんの要望には長年の経験と技術で応える。「お客さんが満足してこそ」と話す服部さんから自信とこだわりが伝わってきました。



服部さんの手さばき(右上)と作品

荒川線 町屋駅前駅 都電散歩 6



尾久方面からみた 都電町屋駅前駅

都電荒川線の三ノ輪橋から六つ目の停留所は町屋駅前である。町屋駅周辺は荒川区では交通の要所です。地下鉄千代田線、京成線、都電荒川線、都バス路線が走り、周辺住民にとっては極めて交通の便が良い地です。また、停留所前には都

電尾竹橋通りが南北に伸び、道路沿線には尾竹橋商店街が並び、銀行、スーパーチェーンストア、ファーストフード店、その他個人商店が尾竹橋まで続きます。

とりわけ最近の駅前再開発によって、駅前に高層ビルが立ち並び、町の様相は一変しました。開発といえは耳ざわりは良いが、これは環境破壊と伝統破壊の面もあることを忘れてはなりません。

尾竹橋通り、隅田川の手前に荒木田という停留所があります。この地はその昔、荒木田の壁土の産地として有名でした。江戸時代の荒木田の原は隅田川の氾濫が多くあり、その都度肥沃な泥土に覆われ、春には花の原と化したといわれています。

晩春の早朝、朝もやの立ち込める町屋、荒木田の原を道灌山から眺めた風景は、江戸のなかでも絶景として有名だったといわれています。

文 竹達浩記者—南千住 写真 船橋賢一—書記局

訃報

■西山三治郎さん(日暮里2、建具) 2010年9月23日死亡 享年103
西山さんは、日露戦争後の1907(明治40)年に生まれました。58(昭和33)年に組合に加入し、その後

52年、半世紀以上にわたって活動しました。荒川支部では最高齢の方でした。
■柴吉子さん(荒川、板金) 10年5月4日死亡 享年43
ともにご冥福をお祈り申し上げます。